

2021/3/27

審判部長 千葉 清久

関係各位

2020/4/7 に 2020/21 競技規則が改正されました。これを受けてブロックは 2021 年度より改正した競技規則を適用します。

改正内容の詳細は JFA ホームページを確認してください。

ここでは 4 種、グラスルーツに関連したものを抜粋します。ただし文章は通達の内容通りです。

●ハンドの反則

- ・偶発的にボールが攻撃側競技者の腕や手に当たった場合、当たった「直後」に得点。また、その競技者やチームが決定的な得点をする機会を得た場合のみ罰せられることになる（例えば、ボールが手や腕に当たった後、ボールがほんの短い距離しか移動しなかったり、数少ないパスしか行われなかった場合など）
- ・ハンドの反則になるかどうか判断をするために「腕」は脇の下が一番奥の場所の位置までと定義することとした。

●ペナルティーキックおよびペナルティーマークからのキック（K F P M）

- ・ボールがけられる前にゴールキーパーが飛び出したが、ボールがゴールを外れたりゴールポストや黒柴一か跳ね返った場合、ゴールキーパーの飛び出しが明らかにキッカーに影響を与えていない限り、キックは再び行われない。
- ・（試合中、または K F P M において）ゴールキーパーが飛び出して、キックを再び行うことになった場合、最初の飛び出しには注意が与えられ、以降再び反則を犯せば警告されえる。
- ・試合中に選手に指示された警告は KFPM に繰り越されない。試合中、KFPM の両方で警告となった場合、2 つの毛尾国が示されたと記録されるが、退場にはならない。
- ・ゴールキーパーとキッカーが全く同時に反則を犯した場合、キッカーが罰せられる。

●相手の大きなチャンスとなる攻撃を妨害、又は素子する反則が会って、主審が『すばやい』フリーキックを認めた李、アドバンテージを適用した場合、警告とはならない。

●ドロップボールが行われるときに規定の 4m 以上離れない競技者には、警告される。

●ゴールキックやフリーキックのとき、ゴールキーパーがボールを「フリック（足で持ち上げ）」し、その後、チームメイトがゴールキーパーのボールをキャッチさせるため、頭や胸で戻した場合、ゴールキックは再び行われるが、繰り返し行われない限り罰則は与えない。